

平成26年度函館市節電チャレンジモニター集計結果

1 節電効果（家全体の電気使用量）

モニター期間の2ヶ月間の電気使用量を前年度と比較したところ、節電効果は、使用量2,336kWh、料金57,115円、CO2排出量1,584kg-CO2、削減率15.0%でした。

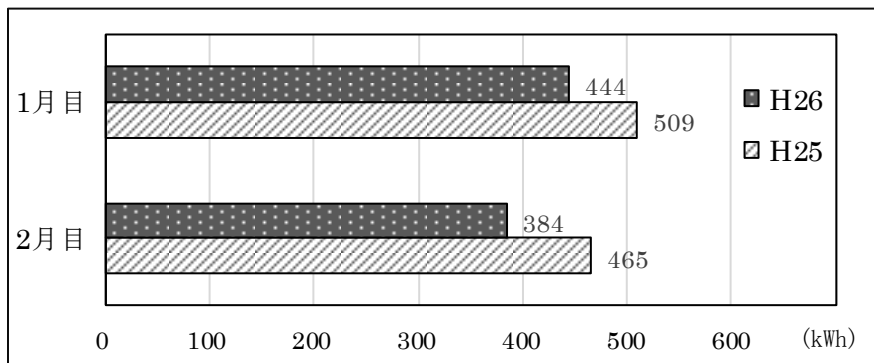
1世帯あたりの平均では、使用量146kWh、料金3,570円、CO2排出量99kg-CO2となり、この取組みを1年間継続すると、使用量876kWh、料金21,420円、CO2排出量594kg-CO2の節電効果が期待できます。

	電気使用量実績値						節電効果			削減率 (%)
	H26 (kWh)			H25 (kWh)			使用量 (kWh)	料金 ※1 (円)	CO2 排出量 ※2 (kg-CO2)	
	1月目	2月目	合計 (A)	1月目	2月目	合計 (B)	差(B-A)			
第1期	2,916	2,776	5,692	3,464	3,332	6,796	1,104	26,993	749	16.2
第2期	4,183	3,370	7,553	4,677	4,108	8,785	1,232	30,122	835	14.0
合計	7,099	6,146	13,245	8,141	7,440	15,581	2,336	57,115	1,584	15.0
平均	444	384	828	509	465	974	146	3,570	99	

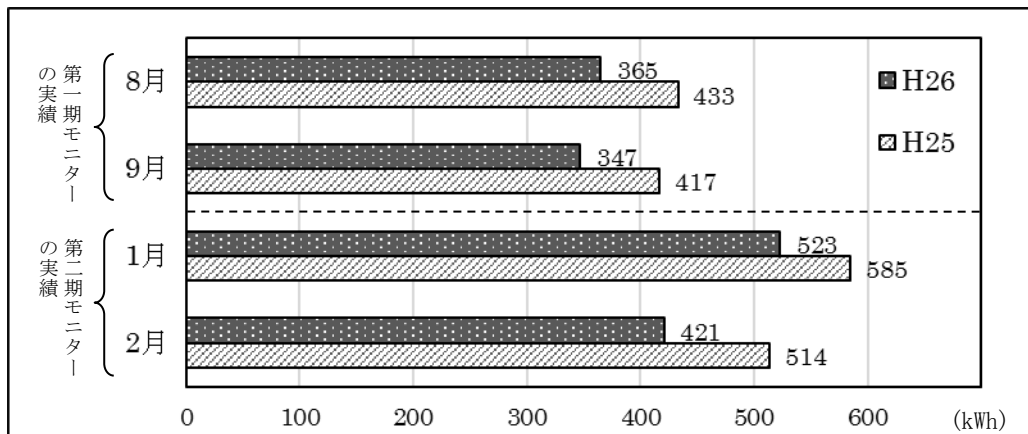
※1：料金の積算は、各モニター期間の北海道電力の従量電灯電量料金の120kWh・280kWhまでの平均値1kWh=24.45円を用いた。

※2：CO2削減量の積算は、北海道電力の最新(集計時)の実排出係数1kWh=0.678kg-CO2を用いた。

電気使用量（平均）



各月の電気使用量（平均）



主な節電行動（参加世帯が実践した主な節電の取組み）

主な節電行動	取組み世帯数		
	第1期 (世帯)	第2期 (世帯)	合計 (世帯)
照明の点灯時間を短くする。	7	6	13
待機電力の削減する。	3	4	7
テレビを見ていない時は消す。	4	3	7
省エネタイプの家電（照明等）に交換する。	2	3	5
パソコンを使わない時は電源を切る。	2	2	4
暖房の設定温度を低めにする。	0	4	4
洗濯はまとめて洗う。	1	2	3
暖房の運転時間を短くする。	0	3	3
冷蔵庫の無駄な開閉はしない。	2	0	2
家族で同じ部屋で過ごす。	1	1	2
掃除機を使わずに掃除する。	1	1	2
間隔を開けずに風呂に入る。	0	2	2
扇風機の運転時間を短くする。	1	0	1
窓を開けて換気システムの電源を切る。	1	0	1
エアコンの運転時間を短くする。	1	0	1
冷蔵庫に物を詰め込まない。	0	1	1
食洗機は、まとめて洗う。	0	1	1

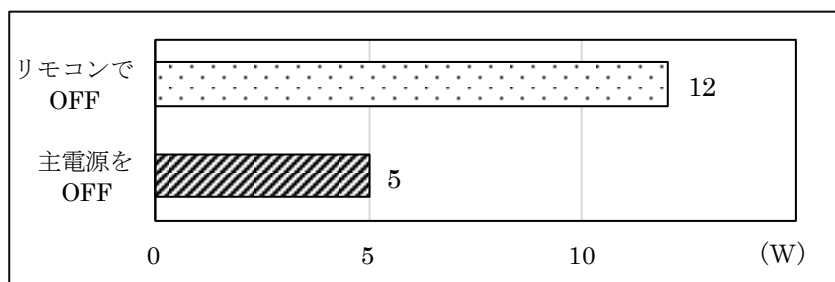
2 主な家電製品の消費電力

節電の参考とするため、主な家電製品の待機時と使用時の消費電力を、家電製品型電力測定器で測定してもらったところ、測定結果は次のとおりとなった。

待機時の電力（平均）

テレビの待機電力は、リモコンで OFF にするより主電源を OFF にした方が、平均で約7W 消費電力が少ない結果となり、外出時や就寝時等の長時間使用しない時間帯は、主電源をOFFにすることで節電効果が期待できる。ただし、18台中4台は、消費電力が同じ結果となっており、機種によっては、違いが生じない場合もある。

取組品目	取組台数	リモコンで OFF (W)	主電源を OFF (W)	待機電力の差 (W)
テレビ	18	12	5	7

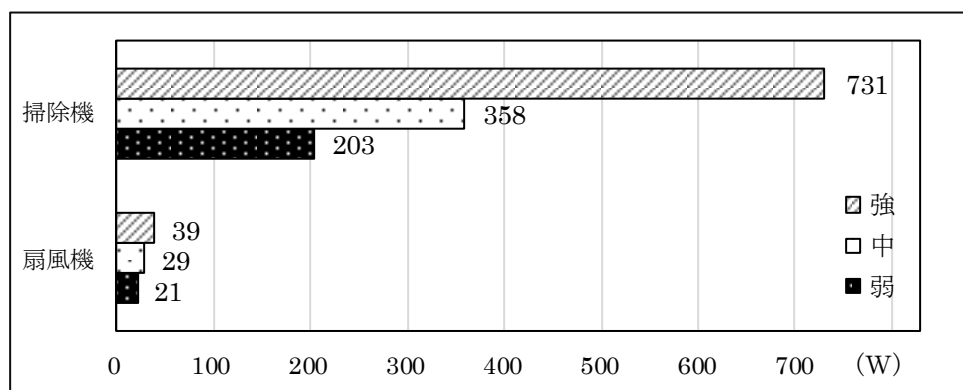


使用時の電力（平均）

掃除機と扇風機の使用時の電力は、強さによって消費電力が大きく異なる結果となり、必要に応じて強さを調節することで、節電効果が期待できる。

なお、第2期は、扇風機の代わりに電力使用の気になる家電製品を自由に選択し測定してもらったところ、こたつや温水便座の温度の調節により大きく消費電力が異なるなどの節電の参考となる報告があった。

取組品目	取組台数	強さ：強 (W)	強さ：中 (W)	強さ：弱 (W)
掃除機	16	731	358	203
扇風機 (第1期のみ)	9	39	29	21



3 意識して取り組んだ省エネ行動や感想

○夜のテレビを見る時間を10時迄とした。

○LEDの照明にした部屋の効果があったので、全部屋の設置を早める。

○温水便座の電源をOFFにした。

○個別断SW付きテーブルタップを使用した。

○始めは照明の消し忘れが多かったが、終わりの頃には習慣になったのか、消してもらえるようになった。

○目に見えるので、「今すごい電力になってるけど何？」とか子供も節電の意識が出てきて良い経験でした。

○可能な範囲で節電する、無理はしない。

○個々の電気製品の使用電力がわかり節電意識が出た。だが節電にも限度があることがわかった。

○照明については特に意識的に取り組んだ。

○白熱球の消費電力は意外と大きいのに驚いた。

- 冬季にもモニターして夏季と比較してみたい。
- 期間内に1週間程度不在だったので単純に比較できないが、数値が下がっていたので、努力した甲斐があった。
- 不要なときにパソコンを切るなどできるだけ電気を使わないよう努力した。
- 使用量がリアルタイムでわかるので、すごく便利だった。
- 電子レンジの使用時に値がハネ上がるのに驚いた。
- 消費量がほぼリアルタイムで見えるだけで意識が大きく変わることを実感した。個人的に欲しいと思いました。
- 家族みんなで協力し合うことがとても大切ですね。引き続き節電行動に取り組もうと思います。
- 夏の間は窓を開けたら換気を切るようにして、なるべくエアコンも使わないように心がけました。照明もLEDに替えたので、かなりの節電ができたと思います。
- 無線LANとルーターの電源を使わない時は、切るようにした。
- これ以上の省エネは限界です。
- TVは液晶画面ですが、46インチのため消費電力が大きく、まめに消すことが良かったと思います。昨年より消費は少ないですが、経費UP（電気料金が上がったため）が残念です。
- 冷蔵庫が音を出し始めると消費電力の数値が跳ね上がりびっくりした。予想していたよりも電力を消費するのだということが実感してわかった。
- 毎日測定器のモニターを見て電気の使用量が分り良かった。
- 現在使用中の電力が目で見えるので、日中はなるべく低く保てるように電力計で数値が高めな場合は使っていないものを切ったりしました。
- テレビをブラウン管から液晶に変えて家電製品型電力測定器で（測定したところ）節電（効果）を実感できた。
- 20%の節電が実現できず、不可能だと実感した。電力会社に負けた気がして残念だ。
- 太陽光発電設備を設置しているため、昨年と今年の積雪の違いが使用量に影響している。
- 引き続き、節電に努力したい。
- 前年度に比べて家族が増えたので、思うように節電できなかった。

○給湯を電気のエコキュートにしたので、電気の使用量は増えていますが、電気料金は減っています（割安な夜間電力使用のため）。節電に加えて節水にも努めました。

○普段から取り組んでいたため、これ以上の節電は難しい。

○家族への節電の意識付け、個別スイッチ付タップの活用、室内照明のLED補助灯の活用等で前年同期比で節電目標を達成出来た。（値上がりで費用は節約出来なかったが・・・）。分電盤型電力測定器の設置で家族の節電への意識が醸成された。

○照明をまめに切ったり、暖房を1℃単位でまめに設定した。

○2月の使用量が大幅に減ったのは、家を留守にした日が多かったことが影響しているが、給湯器の予熱時間を減らした効果もあると考えています。

【モニター実施概要】

- 1 モニター期間 第1期：平成26年8月1日（金）～9月30日（火）
 第2期：平成27年1月1日（木）～2月28日（土）
- 2 モニター実施世帯数 22世帯（第1期10世帯、第2期12世帯）
- 3 モニター内容
 分電盤設置型（家全体）1台と家電製品型（家電製品毎）2台の2種類の電力測定器を利用して、家庭の電気使用量を「見える化」しながら節電に取り組んでもらい、モニター終了後にモニター期間の各月の電気使用量（電力会社の伝票で確認）および主な家電製品（テレビ、掃除機、扇風機等）の電気使用量の測定結果等を報告してもらった。
- 4 集計方法
 各月の電気使用量については、前年度同月の使用量と比較を行うため、当該年および前年度の対象月電気使用量が確認できて、引越し等の大幅な生活環境の変化が無い16世帯を集計対象とした。